

持続可能な社会を共創する大学等コアリション
持続可能な地域共創 WG 及び持続可能社会の担い手育成 WG の連携による

大学等における持続可能な地域づくりの担い手育成検討会

背景及び主旨：

地域脱炭素化と持続可能な地域づくりを進めるには、地域関係者と対話しながら地域課題を把握し、その解決策を共に検討して提案にまとめられる専門人材やコーディネーター、さらにそれを率いるリーダーの育成が欠かせない。多くの大学等でそれに関連する学部や学科が設立されてきており、その理論を教えるだけでなく、学生が地域で実践を重ね、理論と行き来しながら学びを深められる PBL（Project-Based Learning：課題解決型学習）の機会を提供しはじめている。それに加え、地域課題を国内にとどまらず国際的な視点から捉えられ、脱炭素化だけでなく生物多様性の保全や資源循環も含めた複合的な観点で考えられる人材も求められている。

こうした認識を踏まえ、昨年度、環境省は「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」の地域ゼロカーボンワーキンググループ（WG）と連携し、「地域脱炭素化に向けた大学における環境人材育成の検討会」（全 6 回）を開催した。この検討会では、上記の要点の整理とともに、大学における PBL 実践の促進に向けた方向性が示された。

今年度は、これらの論点をさらに深め、地域脱炭素化と持続可能な地域づくりに向けた大学での PBL 実践を促進するため、[大学等における持続可能な地域づくりの担い手育成検討会](#)（全 5 回）を開催する。本検討会は、「[持続可能な社会を共創する大学等コアリション](#)」の持続可能な地域共創 WG（地域 WG）および持続可能社会の担い手育成 WG（担い手 WG）と連携して進める。

目的：

本検討会は、昨年度の検討会の成果を踏まえ、大学の様々な組織形態による多様な PBL の取組事例や全体的な傾向を示すことにより各大学における PBL 実践の再現性を高め、その体系化及びその推進に必要な施策等の整理を通じ、引き続き持続可能な地域づくりを支える人材の育成を目的とする。

検討委員：

検討委員は地域 WG 及び担い手 WG の幹事大学及び環境省総合政策課環境教育推進室が務める。それ以外に、各回のテーマに応じ、有識者を 2 名程度招聘する。

持続可能な地域共創 WG（地域 WG）

- 岡山大学 理事（デジタルトランスフォーメーション・グリーントランスフォーメーション担当）／上席副学長 阿部 匡伸 <座長>

- 北九州市立大学 教授／環境技術研究所 カーボンニュートラル推進部門長 松本 亨
- 学校法人立命館 総合企画室 副室長（食マネジメント学部 教授）吉績 巳貴

持続可能社会の担い手育成 WG（担い手 WG）

- 東海大学 教養学部 教授 岩本 泰
- 宮城大学 事業構想学群 教授 小沢 晴司
（副：研究推進・地域未来共創センター 准教授 庄子 真樹）
- 立教大学 環境学部 教授 二ノ宮リム さち

環境省

- 大臣官房総合政策課 環境教育推進室 室長 黒部 一隆

検討会の構成

PBL には学生が理論・実践・対話を往還できる良質なフィールドが必要であり、その効果的な実践には、それぞれの関係者との緊密な連携が求められる。それにはそのためのコーディネーターの配置、担当教員の確保・育成、カリキュラムの見直し、成果の可視化とプログラム自体の評価、その運営に係る資金やリソースの確保等が必要となる。これらの点を踏まえ、検討会の主なテーマは、フィールドのタイプごとに、第 1 回は学内における PBL、第 2 回は地域との連携、第 3 回は国際連携とし、第 4 回は PBL の実践に向けた実施体制等、第 5 回は全体取りまとめとする（図 1）。

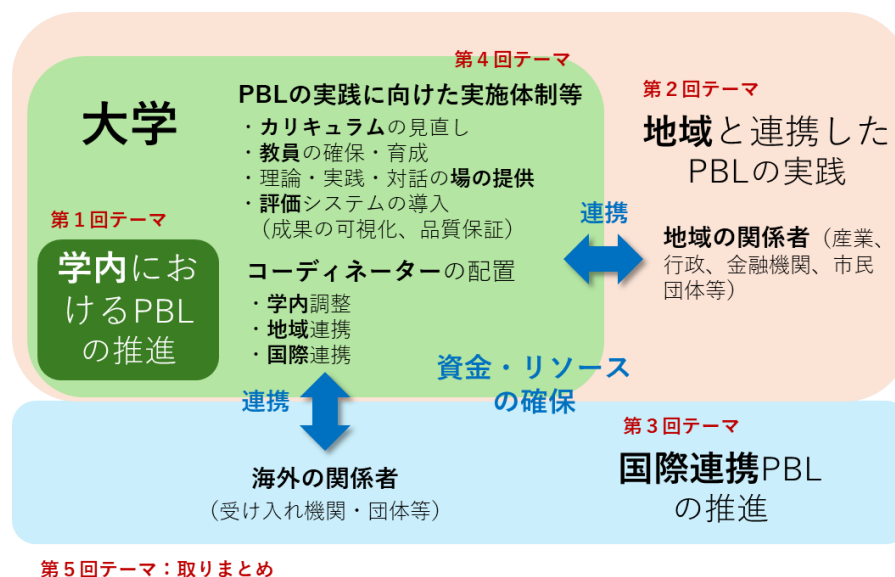


図 1 大学における学内・地域・海外での PBL 推進のための体系図と各検討会のテーマ

第4回検討会：PBLの実践に向けた実施体制等

日時：2026年9月3日（木）13:00～17:45（視察 9:30～11:45）

視察 9:30～11:45

9:30～9:45 JR 花園駅集合

9:45～10:00 移動（徒歩 15 分）

10:00～10:30 妙心寺内散策（妙心寺長慶院住職による案内）

10:30～11:30 妙心寺長慶院の脱炭素転換の取組に関する講和と視察

11:30～11:45 移動（徒歩 15 分）

11:45～13:00 昼食休憩（立命館大学 衣笠キャンパス）

第4回検討会：PBLの実践に向けた実施体制等 13:00～17:45

立命館大学 衣笠キャンパス 創思館 S101（カンファレンスルーム）

13:00～13:30 受付

13:30～14:40

第1部：大学間連携によるPBLの促進と成果の多面的な評価

概要：宮崎大学・細目研究室によるPBLの取組（学生がPBL活動として一次産業を含めたフィールドに入っていく仕組みづくり、PBL活動ログのデータベース化、学習成果や環境貢献価値の可視化、カーボンクレジット付与等）、同様の取組の龍谷大学、岡山大学及び他大学への横展開及び大学間連携の状況等の紹介の後、そのさらなる促進策等について意見交換する。

検討委員（パネリスト）：

- 岡山大学 理事（デジタルトランスフォーメーション・グリーントランスフォーメーション担当）／上席副学長 阿部 匡伸
- 龍谷大学 副学長（政策学部 政策学科 教授） 深尾 昌峰
- 宮崎大学 工学教育研究部 特別准教授 細目 圭佑
- 環境省 大臣官房総合政策課 環境教育推進室 室長 黒部 一隆
- 立命館大学 産業社会学部 現代社会学科 教授 永野 聡（司会進行）

14:40～15:00 休憩

15:00～16:45

第2部：地域とあゆむ持続可能な未来へ ～立命館における人材育成・社会連携～

概要：立命館大学をPBLの一つの実装事例として、「持続可能な地域づくりの担い手育成（環境人材育成）」が特定の学部に限ることなく、全学横断で、かつ自

自治体・企業・地域と連携しながら広がっている具体例を示し、本検討会の論点である「再現性・横展開・実施体制・資金・地域連携」について意見交換する。

発表（各 15 分×5）

- 立命館の環境・環境人材育成と京都市との連携
学校法人立命館 総合企画室 副室長（経済学部 教授） 島田 幸司
- 京都市の環境人材育成への取組み～脱炭素先行地域での事例を中心として
京都市 環境政策局 地球温暖化対策室長 川崎 明浩
- カーボンニュートラル宣言の実現に向けた Scope3 算定の試み（Scope3 算定・院生研究を通じた人材育成）
立命館大学 理工学部 教授 近本 智行
- バイオ炭研究／今郷水田の中干し延長クレジット化実験と人材育成
立命館大学 生命科学部 助教 Tran Quoc Thinh
- オーシャンリペアと食マネにおける環境人材育成
立命館大学 食マネジメント学部 准教授 光斎 翔貴

全体議論（30 分）

司会進行：学校法人立命館 総合企画室 副室長（食マネジメント学部 教授）
吉績 巳貴

主な論点：

- ・ これらの取組を学生の PBL・環境人材育成にどう接続し、体系化・再現性を高めるか（尖った人材とミドル層の両立を含む）
- ・ 他大学・他地域への横展開の可能性と、その条件
- ・ 実施体制（担当教員・コーディネーター）と、資金・リソースの確保
- ・ カーボンクレジット・Scope3 など「可視化・評価・動機づけ」の仕組みの活用（第 1 部との接続）
- ・ 自治体・企業・地域との連携を持続させる仕組み
- ・ 「地域とあゆむ」ために大学が果たすべき役割の再確認

16:45～17:45

懇親会：参加者間の意見交換

補足資料：第 2 部 各発表の概要

発表① 立命館の環境・環境人材育成と京都市との連携

学校法人立命館 総合企画室 副室長（経済学部 教授） 島田 幸司

立命館全体の環境・サステナビリティ教育と環境人材育成の全体像を俯瞰したうえで、京都市との連携（脱炭素先行地域事業）を説明する。

- ・ 立命館の 2030 年度カーボンニュートラル宣言（2021 年 7 月）と全学のサステナビリティ推進体制
- ・ 環境人材育成の枠組み（教養科目「カーボンニュートラル入門」、環境農業学生団体 Kreis 等）と、“尖った人材／ミドル層”という育成の論点
- ・ 京都市脱炭素先行地域事業への参画（グリーン人材 WG・サステナブルツーリズム WG）、テラエナジー等の地域新電力との連携
- ・ 大学と地域が“共にあゆむ”意義——京都市との連携
- ・ 社会人向け GX リスキングプログラムの展開

発表② 京都市の環境人材育成への取組み～脱炭素先行地域での事例を中心として

京都市 環境政策局 地球温暖化対策室長 川崎 明浩

自治体の立場から、環境（グリーン）人材育成の政策と推進体制を紹介し、「大学のまち京都」ならではの地域連携像を示す。

- ・ 京都市脱炭素先行地域事業「ゼロカーボン古都モデル」（2022 年 11 月選定）の概要と取組分野（文化遺産・商店街・住まい・再エネ・ファイナンス・グリーン人材・サステナブルツーリズム）
- ・ 「大学のまち京都」（市内に約 36 大学、市民の約 1 割が学生）における大学連携・グリーン人材育成（学生参画イベント 等）
- ・ 立命館との 2 本柱（キャンパスの再エネ転換／サステナブルツーリズム）と、ゼロカーボン修学旅行（EV タクシー）

発表③ カーボンニュートラル宣言の実現に向けた Scope3 算定の試み（Scope3 算定・院生研究を通じた人材育成）

立命館大学 理工学部 教授 近本 智行

大学自身の排出を可視化・削減する「キャンパス＝実験場（リビングラボ）」の取組を、Scope3 算定という具体例で示し、それを大学院生の研究テーマとして展開していることを紹介する。

- ・ 立命館 2030 年度カーボンニュートラル・キャンパス宣言と全学推進体制（地球環境委員会 等）
- ・ Scope1・2・3 の考え方と、Scope3（サプライチェーン排出）算定の意義・難しさ
- ・ 立命館における Scope3 算定の試みと、それを大学院生の研究として進めている取組
- ・ キャンパスを学び・研究のフィールドとする人材育成

発表④ バイオ炭研究／今郷水田の中干し延長クレジット化実験と人材育成

立命館大学 生命科学部 助教 Tran Quoc Thinh

バイオ炭による炭素貯留（カーボンマイナス）の研究と、地域の水田での実証（中干し延長によるメタン削減のクレジット化・土壌分析）を、学生指導とともに進めている取組を示す。

- ・ 今郷（甲賀市）の水田を対象とした、中干し期間の延長によるメタン削減のカーボンクレジット化実験
- ・ 土壌分析の結果と、学生指導（フィールド研究）を通じた人材育成
- ・ 農業・地域（棚田・生産者）との連携
- ・ 立命館大学日本バイオ炭研究センター（BRC、2022 年 11 月開設・大阪いばらきキャンパス）の概要と、バイオ炭による炭素貯留（J-クレジット）

発表⑤ オーシャンリペアと食マネにおける環境人材育成

立命館大学 食マネジメント学部 准教授 光斎 翔貴

食×海洋環境×地域漁業の課題を、大学発スタートアップ（事業化）で解決する取組を示すとともに、その事業を通じた食マネジメント学部の環境人材育成について語る。

- ・ 磯焼け（藻場の減少）の現状と、地域漁業・ブルーカーボンへの影響
- ・ 食害魚（イスズミ・アイゴ等）を活用したドッグフード「オーシャンハーベスト」と、立命館発スタートアップ（オーシャンリペア株式会社）への展開
- ・ 事業を通じた食マネジメント学部での環境人材育成（学生の PBL・起業・社会実装の経験）
- ・ 地域（長崎県五島列島 等）・企業との連携